

## 地方都市における高齢者の交通特性の実態分析と交通生成パターンの時点間比較

豊橋技術科学大学 ○学生員 小坂美奈子  
豊橋技術科学大学 正 員 廣島康裕

### 1. はじめに

わが国の人口構造は、著しい高齢化をたどっており、2000年には高齢者率は16.3%に達すると予測される。この様な高齢化社会に対し、雇用、年金、福祉サービス、医療、余暇等の様々な問題点が指摘され、検討されてきている。高齢者の積極的な社会参加を支援するにおいて高齢者のモビリティを確保する事は、重要であり、そのため、高齢者の交通行動実態の分析は数多く行われてきている。しかし、これらの研究の多くは、高齢者と非高齢者を分けて行われており、加齢に伴う変化についてはあまり明らかにされていない。そこで、本研究では、加齢による外出行動の変化を把握することを目的とする。

### 2. 調査の概要

実態調査は、豊橋市全域を対象とし、平成3年10月28日に調査票を配布し、11月10日までを回収期間として実施した(1500世帯に郵送配布・回収)。対象者は市内在住の18歳以上の個人とし、市内全域より住宅地図により世帯を無作為に抽出し、世帯当たり3人までを対象者とした。回収率は53.4%であった。

調査票は世帯票と個人票より構成され、世帯票では住所、家族構成等を、個人票では個人属性、自動車運転免許・自由に使える車の有無、最近の平日・休日それぞれ1日におけるトリップの実態を質問した。

### 3. 分析結果

#### 3-1 運転免許・自由になる車について

自動車運転免許の保有率は、年齢階層が上がるにつれて徐々に減少しているものの、50歳までの全ての階層で90%を越えており、50歳～75歳までの階層でも50%以上である。全国の運転免許保有率が平均60.3%であることから、豊橋市は全体的に免許の保有率は高い都市だといえる。また、免許を保有している人で、65歳までの階層でほぼ全員が、65歳以上の階層においても約80%の人が「当分(10年間)免許を持ち続けたい」と

と考えている。

車の保有率も、加齢に伴う減少はあるものの、55歳までの階層で90%、75歳までの階層でも50%以上であった。また、「当分(10年間)車を持ち続けたい」という人も65歳までの階層でほぼ全員、65歳以上の階層でも80%以上を占めている。これらのことより、豊橋市は車への依存性が高い都市であるといえる。

車を手にする目的としては「通勤」「仕事」の割合が大きく、「通勤」が加齢に伴って減少しているのに対し、「仕事」は増加しているため、65歳までの階層では両者を合わせて目的の約80%を占め、65歳以上の階層でも約60%を占めている。このことから、通勤時や業務における公共交通の依存性が少ないことがわかる。

#### 3-2 交通目的

平日と休日の交通目的を図-1、2に示す。平日・休日ともに、年齢層が上がるごとに帰宅の割合が増えている。このことは、加齢に伴い一度に行う交通の目的が少なくなっている事がわかる。また、平日では加齢に伴い「通院」の割合が増えている。休日の「非日常的な買物」「レジャー」の割合は平日に比べかなり高いが、60歳をピークに減少している。

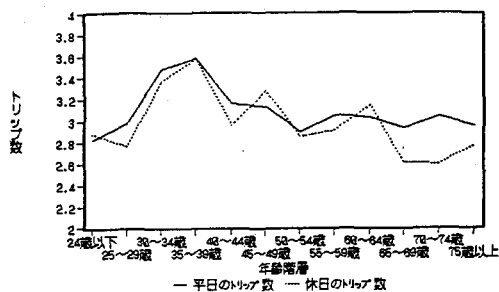
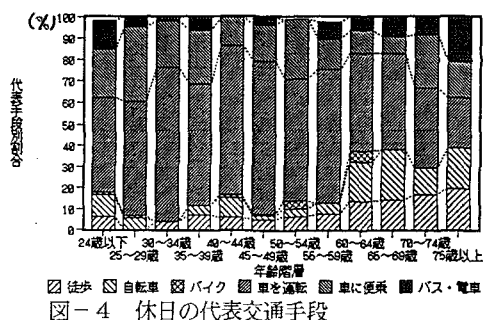
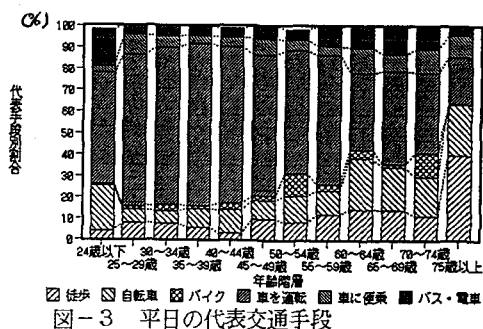
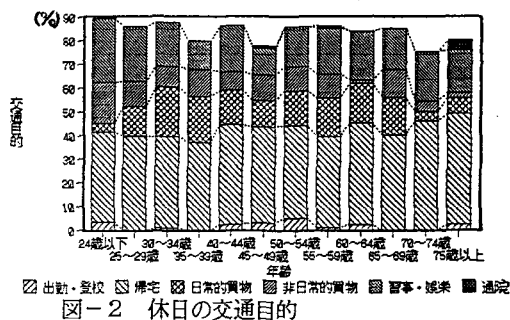
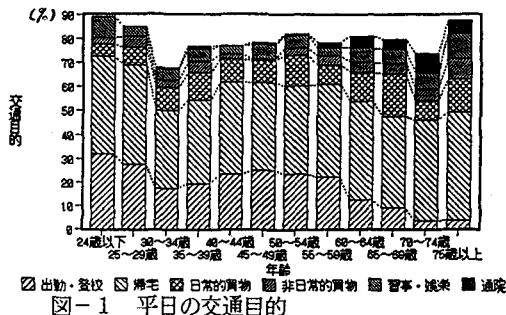
#### 3-2 代表交通手段

平日と休日の代表交通手段を図-3、4に示す。平日・休日ともに「車を運転」がもっとも多いが、40歳をピークに減少しており、60歳を越えるとその傾向は顕著である。このこととは逆に「徒歩」の割合は40歳頃から徐々に増加している。また、「自転車」の割合も加齢により増加している。休日においては、「車に便乗」が全体的に約20%を占めている。

#### 3-3 外出率とトリップ数(ネット値)

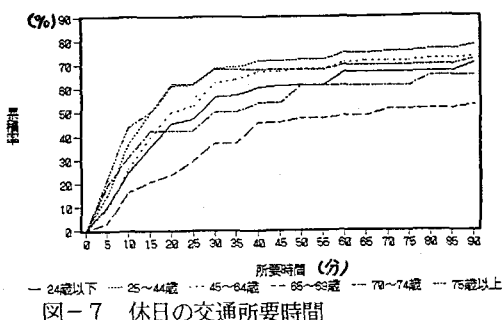
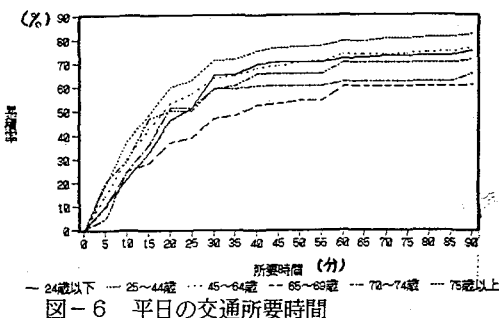
平日の外出率の平均は92%で、ピークである65歳までの階層では90～95%で、65歳以上の階層では徐々に外出率は低下している。休日の外出率の平均は70%で、ピークは60歳にあった。図-5に示すようにトリップ数については、そのピークは40歳にあった。全体的に

平日と休日ではトリップ数に大きな差はみられないが、65歳以上の階層で平日と休日のトリップに差が出てきている。



### 3-5 総所要時間

平日と休日の各交通の総所要時間について図-6、7に示す。平日の交通に要する時間の半数はどの階層も30分以内であるのに比べ、休日においては65歳から74歳で30分を越えていた。また、どの階層も休日の交通に要する時間は平日のそれより長いことがわかる。その傾向は、65歳～69歳で顕著であるが、年齢階層別による違いは、平日、休日ともに見られなかった。



### 4. まとめ

豊橋市は、車への依存性が非常に高い都市である。高齢化が進むと、高齢ドライバーがより増加していくだろうが、車を利用できない人も増加するだろう。これらの人達を対象とした利用しやすい公共交通機関の整備推進が望まれる。なお、時点間比較については当日発表する。